

小学校体育におけるタグラグビーの活用性の一考察
 —特にボール運動の苦手な児童に対してのタグラグビー有効性について—

山本 頌明 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
 指導教員 森川 みえこ

キーワード：運動嫌い，ゴール型，タグラグビー

1. 緒言

2008年に小学校指導要領解説書(体育編)にゴール型の新種目としてタグラグビーが例示された²⁾。

近年、従来のゴール型の球技において、一定の技術が求められるため、ある児童にとっては一種の難しさを感じる要因ともなってきた¹⁾。こうした実態を踏まえると、普段経験したことのないスポーツをすることで、児童にとってはボール運動に慣れ親しむ上での基礎・基本の獲得が重要ではないかと考える。

本研究では、ゴール型の苦手な児童が、どのような動きが不得意なのかを明らかにし、小学校体育授業でタグラグビーの有効性を示すことを目的とした。

2. 研究方法

2-1. 対象

滋賀県T児童館 小学4年生1名(女子1名)5年生6名(男子2名, 女子4名)6年生3名(男子3名) 計10名を対象とした。

2-2. 実験期間

2013年12月17日

2-3. 研究方法

タグラグビーに関する質問紙アンケート調査及び、STAI(特性不安調査)をタグラグビー活動前後に行った。

3. 結果と考察

実施前後で、「ボールを蹴ることが得意である」、「ボールをキャッチすることが得意である」、「試合でパスカットすることが得意である」の技術的な面に関して不得意と示した被験者が多く見られた。実験実施後、「得意である」

と答えた被験者の数が大幅に増加した。その要因として、ルールが簡単でわかりやすく、被験者の能力に差がないため、全員が同じ練習内容を行えた。仲間と一緒に活動することで、年齢関係なく、会話する場面が見られた。その結果、不得意としていた動きが、協力し合うことによって改善されたと考えられる。タグラグビーにおいて、ボールに対する恐怖心も軽減され、技術的な面が向上し、ボールを扱うことが以前に比べて得意になったと考えられる。STAI(特性不安調査)では、被験者が少なく活動前後の違いが見られなかった。

表1. タグラグビー活動前と活動後のタグラグビーに関する意識調査結果

| 項目 | はい | | どちらでもない | | いいえ | |
|-----------------------------|----|---|---------|---|-----|---|
| | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 |
| ボール運動が好きである | 7 | 9 | 2 | 1 | 1 | 0 |
| ボールを投げるのが得意である | 6 | 8 | 1 | 2 | 3 | 0 |
| ボールを蹴ることが得意である | 3 | 7 | 4 | 3 | 3 | 0 |
| ボールをキャッチするのが得意である | 3 | 8 | 5 | 2 | 2 | 0 |
| 試合でパスカットすることが得意である | 4 | 8 | 2 | 2 | 4 | 0 |
| 試合や練習などでボールを持って動き回ることが得意である | 4 | 8 | 3 | 1 | 3 | 1 |
| 体育でタグラグビーがあったら嬉しい | 5 | 6 | 4 | 4 | 1 | 0 |

4. まとめ

タグラグビーは学年を越えて協力し合うことができ、ゲームにおいて積極的に活動参加できたと思われる。ゴール型の苦手な動きを改善することができたと考えられ、小学校体育授業において有効性があると示唆された。

引用・参考文献

- 1)高山 由一(2004) 運動嫌いが変わる!心と体をはぐくむタグラグビー Tag Rugby 東洋館出版社 pp33-64
- 2)文部科学省(2008) 小学校指導要領解説書(体育編) 東洋館出版社